**令和３年度　第３回　品川区地域自立支援協議会・障害者差別解消支援地域協議会**

**【各委員意見集約】**

**１．品川区地域自立支援協議会**

**<令和３年度および令和４年度の相談支援部会の活動について>**

〇相談支援専門員マニュアルに意思疎通支援事業について盛り込まれたことは良かった。相談支援

　専門員に広く周知され、手話通訳派遣等に活用されることを要望する。

〇相談支援部会の第2回、第3回の報告書および相談支援事業所一覧を読み、相談支援事業所の

　活動の目的や内容、心構え等について素晴らしいと感じた。困難事例については、多くの事例を挙

　げて、各事業所が事例の中で共通認識をもち、適切な対応ができるようにしていくことが大切であ

　る。

〇内容を理解するため、具体的に書面で出して欲しい。相談支援事業所一覧は、事業所の特徴や方針

　などの記載があり、大変参考になった。子どもも対象になっていることがわかるように主たる対象

　者欄に児童も加えて欲しい。児童のみの相談支援事業所も一覧に加えて欲しい。部会員が大幅に増

　えていることは大変良いことと思う。横のつながりが確実に強まることを期待する。

〇相談支援事業者一覧の配布対象者や提供方法は、どのような予定なのか。

〇地域の課題として①地域移行、②住宅サポート、③意思決定支援、④事例研究、と検討課題が多岐

　にわたっている。それぞれで部会を新設し、分けて考えることを提案する。事業所一覧表は、

　「専門員の人数」「利用者数」「どこに連絡すればいいのか」「障害種別での得意分野」などを

　掲載して欲しい。

〇民間に移行した障害児相談支援について、サービス担当者会議を開催せず、コミュニケーションが

　十分でない例がある。支援計画の内容もすりあわせが不十分な例があるため、課題を検証して適切

　な手順で行われるように協議して欲しい。

〇地域移行の実態把握をする際に、区外入所施設についても調査を行ったのは、前進だと思う。

〇都外入所施設入所者への調査については、調査する側の立場のみならず、意思決定支援の考え方に

　ついて共通理解を持って「聞くだけ」の調査にならないように進めてほしい。

〇住宅については、入所施設が特に大変で、各支援センターの現状を把握している人達に任せようと思う。

〇障害福祉計画に基づく、地域移行が進むよう具体的、計画的な取り組みをお願いする。

〇住宅確保配慮者入居促進事業は、継続して実施状況を知りたい。意思決定支援の実習、福祉カレッ

　ジなどの活用による研修、部会での事例検討を通して、区内全体の相談支援の質の向上になると良い。

〇住宅サポートは、住宅課との連携の中で、相談支援部会のテーマとして議論を継続して欲しい。

〇視覚障害向けの住宅やグループホームがあると良い。

〇事例検討は、令和4年度も引き続き行ってほしい。支援者自身の振り返りや新たな気付き等、学び

　の機会となる。

〇部会活動委員に対し、障害者の情報を提供し、精度の高い検討をして欲しい。

〇多人数の会議であるため、深く掘りさげての問題提起には限界がある。

〇具体的な課題や対策、結果の記載がないため、取り組み内容がわかりにくく回答が困難である。

〇継続的に計画を立てて進めてきたため、次年度も取りくみを継続していきたい。コロナにより書面

　開催となってしまったのが残念だった。

**<令和３年度および令和４年度の就労支援部会の活動について>**

〇重度障害者の就労の場については、企業就労、就労A・Bともに、利用先を探すことが非常に困難

　となっている。多様な就労支援を考えられるように、就労（雇用）の定着を図れるような支援の

　工夫、地域のA型、B型の受け入れ体制について検討が必要と思う。本人、家族の加齢、高齢化か

　らくる問題など、生活面で困難となっていることはないか、部会でそれらの話題が出ることはない

　か、伺ってみたい。

〇重度障害者の就労が進むような取り組みの検討をお願いしたい。

〇超短時間雇用のセミナーは、事業所内で新たな雇用の仕組みを知る機会ができて好評だった。他の

　取り組みや事例、実践している生の声も聞いてみたい。

〇超短時間雇用のセミナーの開催や意見交換する機会は大変有意義な活動だと思った。

〇超短時間雇用のセミナーに何人参加したのか、感想についても知りたい。

〇オンラインで開催された超短時間雇用セミナーのような取り組みは、他の委員にも周知して欲しい。

〇具体性に欠けるため、意見を出すことが難しい。中身の理解をしたい。

〇書面開催の場合には、開催と実施の事実とあわせて、そこで何がどのように行われたのかを記載し

　なければ、内容についての回答が困難である。超短時間雇用のセミナー実施に関連して、今後具体

　的に品川区内での雇用を取り巻く問題について、どのような課題があり、また具体的にどのような

　取り組みができるのか、自立支援協議会のテーマとして委員全体で議論する機会が必要である。

〇部会員が大幅に増えていることは大変良いことだと思う。横のつながりが確実に強まることを

　期待する。

〇ハローワークの担当者から、コミュニケーションや意思疎通の困難さがあるため、聴覚障害のある

　方は、就労が困難だと言われた。就労移行関係の事業所においても、意思疎通支援事業について広

　く周知し、実際に手話通訳派遣等、活用されることを要望する。

〇品川区の地域内企業に、障害者雇用促進のPRを積極的にチラシ、広報等で周知したらどうか。

〇コロナ下での取り組みで、頭が下がる。

**<令和３年度および令和４年度の子ども支援部会の活動について>**

〇保育所等訪問支援の制度の説明について、区立保育園や幼稚園で周知し、第一歩進んだように思

　う。引続き学校、私立園長会で周知をお願いしたい。

〇保育園や学校への周知について、施設長会等を活用する形ですすめていると思うが、実際の保育・

　教育の現場レベルでのうまくいった成功事例等もとりあげて具体的に共有し、そのための相談支

　援事業所や保育所等訪問支援等の位置付けや意味を理解していただける場もあると良い。

〇資料4「保育園や学校へのサービス周知について」は、子ども支援が縦割りではなく保育、福祉、

　教育という分野を超えて周知・共有されることを願う。

〇児童に限らず成人でも、学校卒業時に教育機関と福祉との連携や役割分担は課題だと思う。

　校長会、施設長会等で役割を周知していく活動を通して、当事者や家族が地域の中で住みやすく、

　サービス利用などがスムーズに行えるようになると良い。

〇次は施設長会、校長会に部会長等、委員も参加し、連携が進むよう取り組みを進めてほしい。

〇第3回の部会で報告されたアンケート調査の結果に関心がある。施設長会を活用することは、

　有用だと思う。

〇聴覚障害の重度の児童・生徒は、ろう学校に通い、専門教育を受けるため地域との関わりが希薄

　である。地域社会と継続して関わる機会を検討してほしい。

〇書面開催の場合には開催と実施の事実だけではなく、そこで何がどのように行われたのかを記載

　しなければ、内容についての回答が困難であるので、アンケート調査は、書面開催の場合、その結

　果を書面に含めてほしい。

〇書面開催では、報告が概要だけではわからないことが多く、もっと具体的に書面で出してほしい。

〇部会員が大幅に増えていることは、大変良いことだと思う。横のつながりが確実に強まることを

　期待する。

〇区内の社会資源の見学会は、実際のチラシや案内だけでは伝わらない所も多いので、良い企画だと

　思う。

〇各障害児者相談支援センターにおいても今まで障害者相談支援だったものが、途中から児も扱う

　様になり、児童の勉強も必要と感じた。

**<品川区地域自立支援協議会全体会について>**

〇各部会の役割や取り組み状況が見えて良かった。オンライン参加の選択肢も新しい取り組みで

　良かった。委員の発言がもう少しバランス良く聞けたら良かった。

〇Webex等のオンライン使用での開催も積極的に取り入れてほしい。

〇コロナ禍で対面開催が中止になることは仕方ない。ZOOMなどを活用した開催について、合理的

　配慮すべき点はある。検討してほしい。

〇現在のような事態が当面続くことが考えられるため、フルオンラインの会議開催について検討

　して欲しい。

〇書面開催は審議や意見交換が難しいため、オンライン開催やハイブリッド開催も検討してほしい。

〇全体会、部会ともにオンライン開催を希望する。当事者としての参加を促すため、分かりやすい

　瓦版のようなものを発行して欲しい。

〇書面開催は反対で、オンライン開催を希望する。委員として様々な区内の当事者団体からの参加が

　あるのは意義の大きいことである。会長や副会長に当事者団体の委員が就くことが望ましい。

〇新型コロナウイルスの感染の影響から、参加の仕方について、オンラインが選択できたのは良い。

　終息後も選択できる形を続けられたら良い。

〇部会の増設を希望する。企業が策定するＢＣＰを考える部会や権利擁護の部会も必要である。

〇もう少し会議の回数を増やしても良い。

〇部会を増やすことが必要で、優先されるのは防災だと思う。災害時個別支援計画の作成が令和３年

　度３０件との報告があったが、当事者抜きで進めることのないようにして欲しい。福祉避難所の

　実態・備蓄用品・非常用電源の確保等について、障害種別をこえて当事者も交えて協議して欲しい。

　障害者グループホーム整備事業の内容も自立支援協議会で協議して欲しい。

〇全体会について、会議内容が多く時間が不足しているように感じている。新型コロナが落ち着くよ

　うなら、年6回程度開催し、様々な問題に対して明確な回答を示したら良いと思う。緊急事態宣言

　が発出されていない場合は、感染対策をしっかりして対面での会議開催を行って良いと思う。

〇自立支援協議会全体会の中で部会の活動に対して意見をもらう流れができていて、少しずつ良い

　形になっている。

〇開催日時の都合があわないことが多く、残念である。

〇仕事を持ちながらの活動に感謝している。

**２．品川区障害者差別解消支援地域協議会**

〇相談事例の共有を図りました。個別事例のため掲載はしません。

〇ハンドブックが有効に活用され、広く浸透してほしい。区民等に向けてどのような周知や活用を

　予定しているのか教えていただきたい。

〇相談できる場があることを知らないで、相談事例が少ないのは問題。リーフレットも一新し、

　その行方も気になる。図書館などに設置するだけではなく、他の手立ても検討して欲しい。

**<令和４年度以降の障害者差別解消支援地域協議会の体制について>**

〇単独開催に賛成する。

［理由］

・単独開催の方が、じっくり話しあえる。話し合いの時間が足りない。

・事業者、行政、当事者が集い、差別事案の予防的対応や知識啓発などの取り組みが必要。

・協議会後の開催だと、限りある時間の中で流れ作業にならざるをえないところがあるため。

・ハンドブックの改訂もあると思うので、時間を設けて意見を交わせるため。

・これまで会議にわりあてる時間も自立支援協議会に比べてボリュームも少なく感じていた。差別解

　消は、他のあらゆる事業や取り組みに及ぶ問題だととらえている。

・自立支援協議会は議題も多く、ボリュームもあるので２時間のなかで差別解消支援地域協議会も

　行い、十分な議論を行っていくのは難しい。

・効果的、円滑に行うためとあるので、それは良いことだと思う。

・今までは、地域自立支援協議会後に引き続き行っており、時間的な問題で事例が１件だけしか議論

　されなかったのか。会議を別にしたらもっと事例が出て協議できるのなら、分ける必要があると

　思う。

・日程確保の上では同時（同日）開催の方が都合が良いが、会議の内容を充実させる趣旨なら、単独

　が適切である。

〇今年度も同じような議題内容と量だと３０分程で終了してしまうと思うが、単独で開催するので

　あればもう少し内容を検討してほしい。

〇ハンドブック第4版も完成し、義務付けられたことの周知だけでなく、民間事業者とどの様な

　協議をしていけるのかを話しあっていければ良い。委員構成や回数によるが、日程調整に苦労する

　のではないか。

〇他区で行われているように、相談の内容とその対応について、記録をまとめ、区民に情報公開を行

　うべきと考える（参考例　令和２年度　世田谷区自立支援協議会　活動報告書　４２ページ資料

　５－１）。

〇東京都福祉保健局で毎年開催されている「地域自立支援協議会交流会」にも委員のいずれかが参加

　し、得られた情報が品川区の自立支援協議会に報告されることを希望する。

〇メンバーは同一であれば、同時開催でも良い。